

輪島塗

歴史

輪島塗の発祥は、約1000年前の大陸伝来説、15世紀初めに輪島にきた根来僧が普及させた説、近くの柳田村に伝わる合鹿碗[ごうろくわん]が原型という諸説があるが、文明8年(1476年)には輪島に塗師がいたことは明らかになっている。天正10年(1582年)加賀藩主の能登巡行の際、すでに輪島塗の特徴である地の粉が使われており、輪島独自の加飾技法である沈金[ちんぎん]は18世紀に完成、蒔絵[まきえ]は19世紀初め会津からもたらされている。

漆器の販売は塗師屋[ぬしや]が商品見本を背負い全国各地を行商してまわり、販路を拡大していった。特に、18世紀から講組織による販売が加わり、飛躍的に需要が伸びるとともに品質向上がはかられた。また、北前船によって全国に運ばれ、その名声を広げていった。

特色

堅牢な塗りと加飾の優美さを特徴とし、日本を代表する漆器として高く評価されている。

特に、輪島特産の地の粉(珪藻土の一種)を下地に塗り、塗り上げるまでに20工程以上、総手数では75~124回にも及ぶていねいな手作業で作られるため、堅地漆器の名声を博している。

さらに、木地の外側や損傷しやすい箇所には漆で麻布を貼る布着せの技法や地付けの際、下地が剥離破損し易い上縁に栓皮笥[ひかわべら]で生漆を塗る地縁[ちぶち]引きが、漆器の品質と堅牢度を高めている。

また、加飾にも優れ、特に、沈金技法は輪島で完成したといわれ、多くの名工を育ててきた。

昭和52年4月25日国の重要無形文化財に指定されている。



輪島塗

歴史與特色

關於輪島塗の發祥傳説諸説紛紜，其中一説是約1000年前由中國傳入而來，另一説是15世紀初由根來寺來訪的僧人所普及，還有一説是柳田村流傳的合鹿碗為其原型。不管發祥是來自哪裡，據記載在1476年輪島地區就已經有漆匠的存在了。1582年，在加賀藩主訪問輪島的時候，使用了使漆器牢固的矽藻土。在18世紀完成了嵌金技術。19世紀初從福島的會津傳來了泥金畫技法。輪島漆器運用了多種多樣的技術，其美觀又牢固的特徵使其成為日本的代表性漆器，並受到了很高的評價。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	輪島市(輪島市)
主な製品名(主要産品名)	飲食什器、室内装飾品、茶道具(餐飲器具、室内装飾品、茶具)
主な生産者(主要生産者)	輪島漆器商工業協同組合(輪島漆器商工業協同組合) 〒928-0001 輪島市河井町24-25(輪島市河井町24-25) TEL (0768)22-2155 FAX (0768)22-2894 MAIL info@wajimanuri.or.jp http://www.wajimanuri.or.jp